

地域保健

11

2021

●特集

子どもの性と向き合う

—包括的性教育とプレコンセプションケアを踏まえて

●座談会

保健活動におけるデータとエビデンス

—EBPM、ICT、AI の時代に





【特集】

6

子どもの性と向き合う

— 包括的性教育とプレコンセプションケアを踏まえて

8 【鼎談】子どもの性に保健師はどう向き合うか

(出席者) 五十音順

岩室紳也さん (オフィスいわむろ) = 司会

黒濱綾子さん (鳴門市)

宮原由紀さん (Siblings 合同会社 家庭でできる性教育サイト「命育®」)

22 小児期はプレコンセプションケアへの準備期間

阪下和美 (東京都立松沢病院)

26 【事例】いわき市「いのちを育む教育」の取り組みについて — 指針の策定と活用

後藤奈都美 (いわき市こどもみらい部)

【座談会】

30

保健活動におけるデータとエビデンス

— EBPM、ICT、AI の時代に

(出席者) 五十音順

柴川ゆかりさん (豊田市保健部)

曽根智史さん (国立保健医療科学院) = 司会

藤間公太さん (国立社会保障・人口問題研究所)

春山早苗さん (自治医科大学)

② ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ! ▶ 和田実穂里さん、村木 萌さん (小坂町福祉課)

⑤9 イベント開催報告 ▶ 保健師さん応援企画緊急オンライン集会『お聞かせください 保健師さんの声』

⑥8 活動報告 ▶ 児童相談所における新型コロナウイルス濃厚接触児童の一時保護対応

秋末珠実、溝口和子 (明石市こども局明石こどもセンター)

⑦7 報告 ▶ 港区の保育施設における新型コロナウイルス感染症の影響調査について

安井千恵、田辺 歩、二宮博文、太田留奈、松本加代 (港区みなと保健所) 堀 成美 (港区感染症専門アドバイザー)

⑧2 ピー プル ▶ 森山奈央美さん (インパクト東京 (NPO 法人ライフライツ) 代表)

⑨4 情報 B O X

⑨8 総 合 目 録

⑩0 次号予告 / 奥付

連 載

④6 東京保健師ものがたり《第4回》 / 和泉慶子

⑥0 オンライン市役所だより《第4回》
／保健師とつながろう課

⑥2 保健師に求められる LGBTQ の知識と支援の在り方
《第6回 最終回》 / 日高庸晴

⑥4 保健師のストレスケアに生かすパッチフラワー
《第6回 最終回》 / 八木知美

⑥6 ESSAY 国際保健《第46回》 / 松田正己

⑦2 短期連載 新型コロナ対策における地元大学教員の
保健所支援 《第3回》 / 桂 晶子ほか

⑧6 保健師のための関話ケア《第97回》 / 藤本裕明

⑨0 中臣さんの環境衛生ウォッチング《第82回》 / 中臣昌広

ひよこ

ホッポ★ステッポ★ジャンポ!



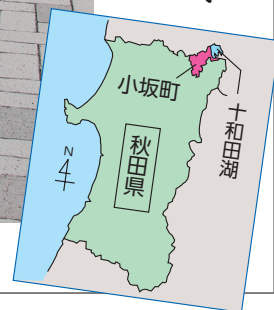
小坂町で続く昔ながらの交流や支え合い
日常の生活こそ、保健師の活動の原点

和田実穂里さん
村木萌さん

● 小坂町福祉課まるとこ支援班

わだ・みほり

むらき・もえ



小坂町のシンボル「康楽館」にて。明治時代に小坂鉱山の厚生施設としてできた
芝居小屋で、日本最古級の劇場の一つ。(左から村木さん、和田さん)

「包括的性教育」という言葉をよく耳にするようになった。性をセックスや出産だけではなく、人間関係、人権、ジェンダー、健康・幸福など幅広い視点から包括的にとらえる概念で、国際的には広く認知されており、知識だけを伝える性教育とは異なる。科学的な根拠を重視し、幼少期からの継続的な教育としているところにも特徴がある。一方、女性やカップルを対象として将来の妊娠に向けた健康管理を促す取り組みにプレコンセプションケアがあるが、その基盤は小児期につくられるという。性の問題と向き合うのは小児期からというのが新しい潮流である。

特集では、包括的性教育やプレコンセプションケアの視点から、子どもの性との向き合い方を考える。保健師は母子保健を担う専門職として、このテーマと無縁ではられないのではないか。

子どもの性と向き合う

包括的性教育と
プレコンセプションケアを踏まえて

P 8 〈鼎談〉子どもの性に保健師はどう向き合うか

(出席者)

◎岩室紳也さん (オフィスいわむろ) = 司会

◎黒濱綾子さん (鳴門市)

◎宮原由紀さん (Siblings 合同会社 家庭でできる性教育サイト「命育®」)



▲岩室紳也さん



▲宮原由紀さん



▲黒濱綾子さん

P22 小児期はプレコンセプションケアへの準備期間

◎阪下和美 (東京都立松沢病院)

P26 《事例》いわき市「いのちを育む教育」の取り組みについて 一指針の策定と活用

◎後藤奈都美 (いわき市こどもみらい部)



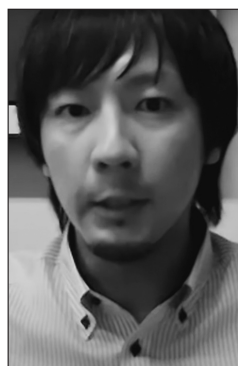
AI

保健師が担う業務の範囲は幅広く、求められる技術也多岐にわたるため、保健師の活動を「見える化」するために過去さまざまな試みがなされてきた。平成 31 年度には地域保健総合推進事業「地方公共団体における効率的・効果的な保健活動の展開及び計画的な保健師の育成・確保について」で、効率的・効果的な保健活動の在り方を整理しているが、中でも客観的データは重要な位置を占め、調査や研究で検証されたものはエビデンスと呼ばれることもある。

近年、医療における EBM を参考に、EBPM (evidence-based policy making、根拠に基づく政策形成) の考え方が広がっている。エビデンスの定義には幅があり、さまざまなレベルがあるとされるが、政策や業務を効率的・効果的に進め、評価にも役立つものとして期待されている。一方、行政や企業における ICT、AI の活用が注目されている。保健福祉の分野でも、児童虐待の早期発見をめざす AI が登場するなど、変化の兆しが見えてきた。

座談会では、保健師業務におけるデータやエビデンスの扱いについて語り合う。かつては経験に基づく職人芸でこなしてきた保健師の活動も、近年はデータに基づく活動を重視してきているが、EBPM、ICT、AI の巨大な潮流の中でどのように変わっていくのだろうか。

出 席 者



曾根智史さん
◎国立保健医療科学院Ⅱ司会

春山早苗さん
◎自治医科大学

柴川ゆかりさん
◎豊田市保健部

藤間公太さん
◎国立社会保障・人口問題研究所

ICT

座談会

保健活動における データと エビデンス

EBPM、ICT、AI の時代に



EBPM

イベント 開催報告

保健師さん応援企画
緊急オンライン集会

「お聞かせください 保健師さんの声」

第1回
9月10日(金)

●
第2回
9月23日(木・祝)



小誌9月号のニュースではコロナ対応に疲弊する保健師の窮状を取り上げた。編集部にも、仲間と話す場や保健師のメンタルヘルスケアが必要という声が相次ぎ、9月号が読者の手元に届く令和3年9月、2回にわたり緊急オンライン集会を開催することにした。その様子を報告する。

●参加状況

第1回は49人、第2回は48人の申し込みがあった(うち約1割は後日の記録動画配信視聴)。所属を明らかにしたくない参加者も想定され、匿名参加も可能とし、参加資格は保健師または保健師を応援したい人とした。そのため属性は正確に把握できなかったが、参加者の約半数は保健師で、ほ

かには保健師以外の公務員、大学教員や学生、民間団体や一般住民など、さまざまな立場からの参加がみられた。

●オンライン集会での話題・情報提供

第1回では、産業医・社会医の三宅琢氏に「産業医が本気で教える心の取り扱い説明書」をボランティアで講演いただいた。過去に働き方を間違えメンタル不調に陥ったという自身の体験も踏まえ、働くことで病気になるってはいけないと呼びかけた。心の不調を知る「心の体温計」、感情的にぶつかってくる人への実践的な対応、そして心をつくるのは自分の言葉であることから、言葉環境を整える話など、参加者の共感を呼んだ。話題提供は公務員のSNSグループ・オンライン市役所と、新型コロナウイルス対応の保健師向けストレスマネジメント研修を紹介した。

第2回は特別区の現職保健師から、第5波のピークアウトを迎えつつある保健師の様子と約1か月の振り返りを発表してもらい、中核市保健所のコロナ対応部署の保健師からも現場の様子が伝えられた。グループ交流は、第1回で課題となったグループ分け人数の少なさやバランス、交流時間の短さなどを改善した。聴くだけでも参加し

やすいよう十数人の2グループとし、意見交換の時間に余裕を持たせ、全体で話題共有するなどに配慮した。第6波に備え、医療提供体制の構築・ワクチン接種・市区町村の役割の具体化について活発な意見が交わされた。話題提供は保健所の協力で撮影されたドキュメンタリー映画「終わりの見えない闘い」新型コロナウイルス感染症と保健所」を監督の宮崎信恵氏のビデオメッセージとともに紹介した。

●参加者からの意見・感想など

参加した保健師からは「自分の心の疲れに気づけた」「同じ境遇の仲間や応援してくれる人がいると知り、頑張ろうと思えた」などの声が上がった。また、多くの方から保健師への応援メッセージが寄せられ、第2回集会では全国保健師長会の清田啓子会長からの手紙に、画面の向こうで涙を拭う保健師の姿も見られた。主催者の準備不足や不備も目立ったが、参加の方々に助けられた集会となった。分野ごとの議論や交流を深めたいというご意見もいただき、今後の誌面やイベント企画に生かしていきたいと考えている。

森山奈央美

さん

●インパクト東京
(NPO法人ライフライツ) 代表

人が本来持っている危険に対応する力を引き出す「護身」のススメ

女性と子どもの体と心を守る護身インストラクターとして活動する森山奈央美さんの温かな雰囲気から、「護身」というキーワードが最初は容易に結びつかなかった。しかし、ひとたび「下がれ!」「失せろ!」といった護身で用いる言葉のデモンストレーションを見せてもらうと、すごい迫力に圧倒される。護身を身に付ける意味や重要性、そして学ぶことの楽しさを教えてもらった。

●取材・文……白井美樹(ライター)

団体設立のきっかけは
災害時に性暴力があったこと

インパクト東京が設立された経緯を伺うと、前代表が阪神・淡路大震災のときに女性に対する性暴力があったことを知ったのがきっかけだったそうだ。

「その事実には衝撃を受けた前代表は、そういうときにどうしたらいいのか知りたいと思う、身を守る術を教えてください」といろいろ探しました。ボディガード経験者

による護身講習に参加したり、武道の道場に通ったりしましたが、どれもピンと来るものがなかったそうです。そんなときに、アメリカに『インパクト』という女性のためのセルフディフェンスを教えているところがあるのを知り、単身渡米してプログラムを学び、インストラクターになる資格を取りました。その後それまで開催していた護身法に加え、平成14年からインパクトの講習会も行うようになったのです」

インパクトの護身プログラムが、それま

でに前代表が経験してきたいわゆる護身術と大きく違っていた点は、実践的でしかも普通の女性が誰でもできることだったという。女性はどのような形で襲われるのか、回避するにはどうしたらいいのか、などのリサーチが行き届いていて、いろいろと理にかなっており、それはフェミニズムの視点にも通じるものだったそうだ。

「一般に護身術というと、訓練して特別な技を身に付けることだと思われがちですが、インパクトの場合はそうではありません

新春座談会

コロナ下における統括保健師の役割

— 非常事態が続く不安と混迷の時代に

<出席者>

春山早苗さん（自治医科大学）＝司会

河西あかねさん（東京都多摩府中保健所）

山崎初美さん（神戸市）

福原 円さん（小山市）

鈴木秀洋さん（日本大学危機管理学部）

特集

高齢者の保健事業と介護予防の一体的推進

— コロナ下でいかに進めるか

●高齢者の保健事業と介護予防の一体的推進について

厚生労働省保険局高齢者医療課

●コロナ下における高齢者の機能低下とその予防

— 保健事業と介護予防の一体的推進を中心に

津下一代（女子栄養大学）

●〈事例1〉恵庭市の取り組み

●〈事例2〉藤井寺市の取り組み

●〈事例3〉日置市の取り組み

●〈事例4〉淡路市の取り組み

ひよこ、ホップ、ステップ、ジャンプ！ 田中千尋さん（宇部市こども・若者応援課）

ピープル

萩原 美由紀さん（認定NPO 法人アール・ド・ヴィーヴル）

研究報告

コロナ禍の行政保健師活動—文献検討で明らかになった悩みと課題、対策と成果
氏原将奈（淑徳大学）

スポット

コロナ対応業務に当たる保健師が自分の「心」を守るために
三宅 琢（株式会社 Studio Gift Hands 産業医）

※変更になる場合がございますので、ご了承ください。

地域保健
令和3年11月号令和3年11月1日発行／隔月（奇数月）1回1日発行
発行人 菅 国典
制作・発行 〒113-0021 東京都文京区本駒込2-29-22
株式会社 東京法規出版
振替 00160-1-371595

【購読の申し込み】

TEL 03-5977-0300
FAX 03-5977-0385
ウェブ www.chiikihoken.net

【内容の問い合わせ】

TEL 03-5977-0353 E-mail chiikihoken@tkhs.co.jp◎表紙・本文デザイン＝新海妙子
◎印刷・製本＝（株）上野印刷所
◎編集長＝須賀健次
◎編集員＝松岡康子本誌に掲載された著作物の
複写・転載等の許諾権は、
株式会社東京法規出版が保
有しています。

合同オンライン開催

後援：厚生労働省、文部科学省、公益社団法人日本看護協会
一般財団法人日本公衆衛生協会、全国保健師長会
一般社団法人日本産業保健師会、公益社団法人大阪府看護協会
公益社団法人大阪公衆衛生協会、大阪府、大阪市、堺市
大阪府市長会、大阪府町村長会、大阪大学（順不同）
共催：公益財団法人在宅医療助成 勇美記念財団（★印が共催プログラム）

第10回日本公衆衛生看護学会学術集会

6th International Conference of Global Network of Public Health Nursing

10周年記念大会

**平時が大事！
リスクに備え「生」を衛るポジティブヘルス**

第10回日本公衆衛生看護学会学術集会
学術集会長 松本珠実
(大阪市健康局健康推進部)

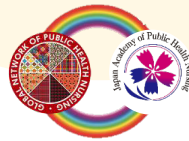
6thGNPHN(国際保健師ネットワーク学術集会)
学術集会長 岡本玲子
(大阪大学大学院公衆衛生看護学教室)

日本語のアナウンス
があるので大丈夫☆

世界の保健師と
つながろう！

2022年1月8日(土)
22:00～23:30
Zoom交流会

時差もへっちゃら！
唄って踊ろう☆



会期：2022年1月8・9日(土・日)

ワデマンド配信期間：2022年 1月 4日- 1月31日

一般参加登録：2021年10月30日-2022年1月18日

本学術集会Webサイト



学術集会参加費：
※国際は国内全てのプログラムに参加できます！

国内	参加登録種別	事前	一般
	会員	10,000円	11,000円
	非会員	11,000円	12,000円
	学生(院生除く)	3,000円	3,000円
	ワークショップ	10,000円	—

国際	参加登録種別	事前	一般
	GNPHN会員	20,000円	25,000円
	GNPHN非会員	30,000円	35,000円
	途上国	10,000円	12,000円
	学生(院生除く)	8,000円	10,000円

招聘講演 ノフィクション作家 石井光太氏
貧困・虐待…最底辺のリアルと向き合って

第20回新潮
ドキュメント賞受賞

企画展 丸山 博先生が遺したもの
一「生」を衛る保健師へのメッセージ

森永ヒ素ミルク事件後
14年目の訪問を導く

基調講演 中村安秀先生
シンポジウム 各国のCovid-19対策 ほか多数

母子手帳を世界に広めた重鎮

問合せ先：
運営事務局
㈱日本旅行 大阪法人営業統括部 MICE営業部
〒541-0051
大阪府中央区備後町3-4-1 山口玄ビル6階
TEL: 06-4256-3869 FAX: 06-6204-1763
E-Mail: 10th_japhn@nta.co.jp

学術集会事務局
大阪大学大学院 公衆衛生看護学教室
〒565-0871
大阪府吹田市山田丘1-7
TEL: 06-6879-2550
E-Mail: phn10j6g@sahs.med.osaka-u.ac.jp